Chikushino No.1237
2026年2月号

発行／筑紫野市　編集／秘書広報課　ホームページ／https://www.city.chikushino.fukuoka.jp/
〒818-8686 福岡県筑紫野市石崎一丁目1番1号 ☎092(923)1111 FAX092(555)7377

印刷／久野印刷株式会社
発行部数／45,000部

文化薫道

～文化の風が吹くまち　ちくしの～

◆其の百二十二

特別な赤

弥生時代の遺跡の発掘調査では、真っ赤に塗られた土器が出土することがあります。

このような土器は、日常使いの土器と比べると特別大きかったり、小さかったり、形が特殊だったりすることが多く、祭りや儀式の際に使われたものだと考えられています。

写真の土器は全体が真っ赤になっていますが、顔料を塗ったあとにヘラなどの工具で丁寧に磨き上げることで、単に赤く塗るだけでなく表面に光沢を持たせています。

赤く塗られたのは土器だけではありません。お墓におさめる棺や棺の中に埋葬された人を赤く塗ったものもありました。

いずれも、日常とは異なる、人生や生活の節目にあたるできごとと関わっています。当時の人たちは赤色にどのような思いを込めていたのでしょうか。

はっきりした理由は分かりませんが、赤色から連想するものとしては太陽や血液などが思い浮かびます。どちらも「生命」と関わるものです。

現在よりも生存することに困難が多かった当時の人たちは、「生命力」を感じるものに強い思い入れがあったのかもしれません。

▲市内出土の丹塗磨研（にぬりまけん）土器

問 文化財課